

祖母はやはり祖母で、今も昔も蟹が大好きです。

私は祖母の食べるものが、どんな味なのかを知りたいと思い、よく味見をさせてもらいます。味を知っていると、食事中の会話にも花が咲き、「甘さ控えめで美味しいね」。

などの声をかけると祖母の表情もいくらか柔らかくなるような気がします。食事の時間が楽しいに越したことはありません。最終的な目標は飲み物、薬、栄養すべてを以前ののように口からモリモリ摂ってもらうことです。

ゆっくりゆっくり目指しています。

3、介護の機械化

ベッドと車いす間の移動には介護用リフトを使います。最初は人間一人を吊り上げるなんて本当に大丈夫なのかと不安になりました。試しに私を吊り上げてもらうと座ったまま持ち上げられるため姿勢に無理がありません。ハンモックの上にいるような心地良さもありました。さっそく祖母を吊り上げてみます。コツはいるけど力は要らず。腰を痛める心配無し！祖母も安心しているようで、緊張による体の力みを感じません。以前は介助

バーを使い、なんとか自分の足で踏ん張れる力があつたのですが、40日間の入院生活でそれも難しくなりました。

病院では看護師さんが毎回二人がかりで祖母を移動させてくれていました。いつか腰を痛めてしまうのではないかと心配になります。病院や特別養護老人ホームなどの施設と、要介護者のいる各家庭にまでこのリフトを普及させることができれば介助者の負担が減るだろうと思います。

4、オムツの感覚

抵抗のあつたオムツ交換は祖母の気持ちを考えることです。すんなり出来るようになりました。祖母に限らず、誰もが自分以外の人に下のお世話をしてもらうことには抵抗があり、

「できるなら自分でやるよ！」、
と思うはず。

理由があつて人の手を借りなければならぬと分かっているでも汚物は見られたくありませんし、恥ずかしさや申し訳ないという気持ちも生まれると思うのです。さらにこれは私の感覚ですが、言葉や表情の上では平気なふりをしていても内心に抵抗があればそれは相手に伝わってしまうという